



40-1 宮家御紋散蒔絵文箱
昭和17年(1942) 木製漆塗、蒔絵 22.2×13.5×5.0



40-2 若梅撫子文蒔絵文箱
昭和17年(1942) 木製漆塗、蒔絵 22.2×13.5×5.0

いずれの文箱も同寸のもので、全体に黒漆塗で銀覆輪を付け、内側は梨子地、白と紫の平打ち紐も共通するなど、同様の仕立てによる。作品番号40-1は高松宮家の御紋が散らされ、40-2には両殿下のお印にちなんだ梅枝と撫子の花枝が蒔絵で散らされている。妃殿下が大切にお手許に置かれてきたお品である。箱書きから、京人形の老舗、田中彌の制作による。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections